

only

オンリーメルセデス

2009年8月1日発行(毎月1日1回発行)第12巻第8号 通巻153号
2000年12月4日第3種郵便物認可

Mercedes

www.onlymercedes.net

Vol.120 AUGUST 2009

950 yen

8

特別付録

only Mercedes
Special Presents

S-class
カスタマイズ
バイブル



S王道 クラス

新しいSのカタチが
ココにある

近未来モデル大予想

DRIVING IMPRESSION

西川 淳×E320 CDI Station Wagon

土屋圭市×C63 & SL63 AMG

岡本幸一郎×NEW E350 & 550

a Graceful time

from KOBE

TEXT BY KUNIHICO SHIRAI

PHOTOGRAPHS BY HIDEAKI TSUBAI/LA SUITE KOBE HARBORLAND

潮香るスモール・ラグジュアリー

100年先も愛されるホテルを目指し、すべて“本物”にこだわる

古くから国際貿易で栄えてきた神戸。その中心となる神戸港に誕生したのが「ホテル ラ・スイート神戸ハーバーランド」である。関西初のスモール・ラグジュアリーとして昨年11月に船出した当ホテルには、癒しを超える居心地の良さがあった。



全室に備えられたジャグジーは、足を思い切り伸ばして浸かれるほど広い。神戸ポートタワーが見えるほど景色もよく、パナルと合わせて心身ともに癒されるはず



HOTEL LA SUITE KOBE HARBORLAND

女性専用スパ&エステティック「ラ・シェール」。ミネラル豊富な海塩による全身トリートメントを行なうラソソニールーム(右)やリラクゼーションラウンジ(下)など設備充実



まるで南仏のリゾートを思わせる洒落な外観(左)。ライトアップされる夜には、よりエレガントな雰囲気になる。荘厳という言葉が似合うロビー(右)



日本最優秀メトロ・ド・テルに選ばれた経験を持つ総支配人の榎山和司氏。神戸市生まれでもあり、「神戸の良さ、日本の良さを当ホテルから世界に発信していきたい」と語る



平安末期に平清盛が日宋貿易を行なうなど、早くから国際貿易港として栄えた神戸。近代でも日本における異国文化発信地としての歴史を歩み、現在も独特の異国情緒を漂わせている。特に、ウォーターフロント開発の中心地となる神戸ハーバーランド界隈は、港街の象徴ともいえる神戸ポートタワーが建ち、また豪華客船などの汽笛が響くなど港街風情にあふれる。そんな洒落た海岸線に馴染むように「ホテル・ラ・スイート神戸ハーバーランド」は佇む。

オープンした2008年11月。第一回日本メトロ・ド・テルコンクールで優勝した総支配人・榎

山和司氏のもと、海外からのVIPも迎え入れられるスモール・ラグジュアリーホテルとして誕生した。特長は、全室テラス付きオーシャンビューや、1Fのガーデンから港へ出られるなど好立地が活かされている点。神戸空港や新神戸駅からも近く、また各観光地へのアクセスも良い。とはいえ、これらはあくまでサブ的な要素。榎山氏が「本物を追求した」と胸を張るホテルの魅力は館内のいたるところにもある。「いいものは100年先でも人から愛されます。当ホテルもそういう存在であり続けたい。ですから、もう、全てにこだわり抜きました」

大きなシャンデリアと生け花が印象深いロビーに始まり、花と音楽がテーマのパブリックエリア、海が見えるスパ&エステティックなど思わず目を奪われるような意匠が備わる。客室に入れば、130年以上の歴史を持つシモンズ社(米)の最上級クラスのベッドやソファ、オーシャンビューの広いジャグジーなど、まるでフランス映画のワシンのような光景が目に見え、食器類には、世界一の銀食器と称されるエルキューイ社(仏)やレイノ社などがセレクトされ、使うだけで笑みがこぼれる。ほかにも、上質な音を提供する球体

スピーカーや持ち込んだパソコンやDVDプレーヤーを接続できる大型液晶テレビなど、こだわりは挙げれば切りがないほど詰まっている。

とはいえ、誤ってはいけないのが、当ホテル魅力が設備だけにあるのではないということ。国内No.1のホテルマンとも称される榎山氏の厳しい目が光るサービス面にこそ、魅力がある。榎山氏は言う。「スモール・ラグジュアリーホテルは国内にもいくつかございます。でも、そのほとんどが外資系です。そういう時代に私達が求めるのは日本旅館のようなおもてなし。そして非日常の空間でありながら、どこことなく

落ち着く日本旅館の雰囲気。当ホテルが目指しているのは、そういう日本らしいスモール・ラグジュアリーホテルです」

創業前、スタッフを有馬温泉「欽山」などの老舗旅館で修業させたのも、客とのほどよい距離感を学ばせるため。前へ出過ぎず、それでいて必要な時には近くにいるような対応は、まさしく日本旅館を連想させる。表現するなら、癒しを超える居心地の良さになるだろうか。

そんなホテルの魅力をさらに引き上げているのが「鉄板焼心」の料理や「レストラン・クール神戸」の本格的なフレンチではないだろうか。

一流グランシェフが生み出す華やかなフレンチ。 そこには地産地消を基本にした兵庫の魅力があふれる

本物を追求する「ラ・スイート神戸」の料理へのこだわりが高いのは、世界的に有名な三ツ星レストラン「アラン・シャベル」などで修業を積んだ鎌田雅之氏をグランシェフに迎えていることから容易に想像がつく。レストラン「ル・クール」のブレイクファストが約7種、ディナーが約9種というボリュームだけを見ても、その情熱は伝わってくるはずだ。

もちろん、素材へのこだわりも高く、黒田庄和牛（神戸ビーフ）や香住蟹、姫路れんこんなど兵庫産の食材を使うなど「本当の意味での地産地消を目指しています」と鎌田氏は語る。「兵庫県は山もあり、瀬戸内海と日本海に面しています。しかも、愛情を持って野菜などを育ててい

っしゃる生産者も多く、素材は抜群です。だから、我々料理人は、その素材を活かさないで失礼だと思いますので、気を付けているのは基本を外さないこと。火の入れ方一つを間違えるだけで、素材を台無しにしてしまいますからね」。

そんな鎌田氏が今、力を入れているのが「しっかりと生産している県内の協力者によるネットワークを作ること」らしい。理由は「まだ世間に出回っていない兵庫の美味は必ずありますし、それをお客様に味わっていただきたい」から。仕入れ先を決める際、鎌田氏はどんなに忙しくても現地へ赴き、生産者と話し、味を確かめる。そんな妥協なき姿勢は、「本物を追求」するホテルの精神にも通じている。



地産地消にこだわる「ル・クール神戸」のメニューには、前菜から明石産穴子を使ったサラダなどが並ぶ。ほかにも但馬牛や明石鯛など兵庫の味が卓を賑わす。写真はイメージ



まるでディナーのような豪華なブレイクファストにも、氷上ヨークルトや播州「初産卵」など地物を使用。自家製焼き立てパンの種類も豊富で、香ばしい香りに食欲をそそられる

神戸ビーフが味わえる「鉄板焼 心」やオリジナルカクテルのあるバー＆ラウンジ「グランブルー」も人気。写真左上は、鎌田シェフ

■今月の特選宿は・・・

日本旅行・赤い風船 ― アーバンリゾート ―

ホテル ラ・スイート神戸 ハーバーランド

客室全70室、洋室、ジャグジー、トイレ付き、73㎡（ダブルもしくはツイン）
IN/15:00 OUT/12:00

旅行代金/1泊2日朝食付き ラグジュアリースーパーアツイン

【宿泊プラン】¥22,800～¥29,000（2名1室 お一人様料金）/¥37,500～¥47,300（1名1室）



2008年11月オープン。全室テラス付きのオーシャンビューで、浴室には大型ジャグジーバスを完備。ヨーロッパ調のインテリアがゴージャス感を演出しているスモール・ラグジュアリーホテル。

◎日本旅行メディアトラベルセンター（大阪予約センター）
☎06-6347-1212
<http://www.nta.co.jp/kansai>



ポートタワー
神戸海洋博物館
神戸ポートタワーや神戸海洋博物館などの名所が集まるエリア。タワー展望台からは、雄大な六甲山系や大阪湾や瀬戸内海、神戸の街並などが眺められる。展望台入場料大人¥600ほか

神戸港クルージング

神戸ポートタワーのある神戸港から、「海賊船ウィラジョイタリア」や「ルミナス神戸2」など、さまざまなクルージング船が発着する。写真の「ファンタジー」は大人¥1200（45分）。☎0120-370-764



南京町（中華街）

横浜、長崎と並び、日本三大中華街の一つと称される。通りには、肉まんの名店「老祥記」などの飲食店や雑貨店などが軒を連ねる。また、神戸牛コロケ（¥150）などのテイクアウト品も多彩で、食べ歩きが楽しい

異国と日本の文化が交差する神戸の街

欧州やアジア圏だけではなく、ブラジル移民も多い神戸の街は、南京町や北野異人館だけではなく、街中で異国情緒を感じられる。だが、少し離れば老舗の酒蔵もあり、日本文化にも出会える。



北野（異人館街）

「風見鶏の館」や「うろこの家」など昔の洋館が残る異人館街。フレンチやカフェなども多く地元民からの人気も高い。「風見鶏の館」前広場からは神戸の街が一望でき、特に夜景は絶景

灘の酒蔵

（白鶴酒造資料館）

1743年創業の白鶴酒造をはじめ、菊正酒造記念館、櫻正酒造記念館など、約10の酒蔵や記念館が集まるエリア。伝統的な日本酒の工程を資料や遺物などで紹介するほか、お土産品も揃う

